

平成 28 年度 国立中央青少年交流の家

教員免許状更新講習～学校教育における体験活動の効果的な進め方～

平成 28 年 10 月 29 日（土）～10 月 30 日（日） 1 泊 2 日

○目的

児童生徒の「生きる力」を育む上で重要な体験活動による教育活動をより一層充実するために、体験活動の意義や指導に関する知識・技術を習得する。

また、喫緊の教育課題である防災教育等を含む安全教育について、体験活動の視点から理解を図る。



○参加者

幼・小・中・高・特別支援学校教諭 計 28 名

○事業の内容

（1）「教育の現状と課題」（講義）

講師：静岡県教育委員会義務教育課長 林 剛史 氏

教育をめぐる現状と課題，国・県の教育政策の動向，これからの教員に求められるものについて学んだ。特に学校現場の多忙化や教員の年齢構成の二極化と高度情報化の説明が行われ，今後教師に期待される学校教育についての提言があった。



（2）「学校教育における体験活動」（講義）

講師：國學院大學人間開発学部初等教育学科 教授 杉田 洋 氏



体験活動の充実が求められている背景，新学習指導要領で重要とされた体験活動の内容とその教育的意義，言語活動と体験活動の関連について講義を受けた。また，異年齢集団による触れ合いの充実を図っている様子などが，ビデオやスライドで紹介され，感動的なシーンに涙ぐむ受講者が多く見られた。

（3）『「キャンドルのつどい」の進行とレク指導』（実習）

講師：国立中央青少年交流の家 企画指導専門職 館 健一

補助講師：居場所づくり研究所 代表 田井中 正志 氏

学校の集団宿泊活動で人気の高い夜のプログラムである「キャンドルのつどい」の進め方と，具体的なレクリエーションの内容や指導方法を学んだ。



(4) 「体験活動と安全教育」(講義)

講師：青少年教育研究副センター長 服部 英二 氏

自然体験活動を「事前、活動、事後」に分け、その時々
に指導者が配慮すべき注意事項や、特に事故につながりや
すい「気をつけよう3要素」について学んだ。また、
「KYTシート」を利用して、危険を事前に予知する
トレーニングを行った。



(5) 「『防災教育』の充実を図る指導方法」(講義・実習)

講師：国立中央青少年交流の家 企画指導専門職 館 健一, 柳原 雅人



基本的な野外炊事の方法を身につけるとともに、災害時に役
立つ調理方法の実習を行った。また、中央青少年交流の家の活
動プログラムである「防災ラリー」を紹介し、防災力の意識を
高める指導方法を学んだ。①防災ラリー(「みんなで脱出」「水
を確保せよ」「ロープワーク」「防災クイズ) ②牛乳パックで
ホットドッグ③アルミ缶を使った炊事の知識と体験の両面か
ら学び、防災教育の充実を図る指導法を学ぶ機会となった。

(6) 「『参加型学習』の計画と指導・アクティブラーニングと体験型授業」(講義・演習)

講師：NPO 法人体験型科学教育研究所 専務理事 古川 和 氏



研修室内でできる実習を中心に行い、学級作りや授業のヒン
トになるプログラムを多数体験しながら、学びを促進するアク
ティブ・ラーニングの重要性について学んだ。

アンケートには、「場の設定を工夫することで、どんな授業
でも参加型学習にできることがわかりました。」などの感想が
あり、学校現場で活かせる内容であった。

《受講生の感想から》

- なかなかハードな日程でしたが、参加してよかった。来年は聴講生として参加したい。
- 講師の話を聞き、教師の役割を再確認でき、教員になった頃の思いを思い出す良い機会となった。
- 「目からウロコ」な発想を知り、一度自身の指導のあり方について、見直す必要があると理解できた。

《成果と課題》

- 素晴らしい講師の指導により、受講生から高い評価を得ることができた。
- 野外活動と防災教育を結びつけ、学校現場で興味を引く教育プログラムとして、紹介することができた。
- 講師の日程変更が直前にあったこともあり、他の利用団体との活動場所のバッティングや宿泊場所についても、受講生に迷惑をかけた。